

平成28年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立八王子東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画課（室）長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(総務担当)、主幹教諭(2学年担当)、進路指導主任、 計8名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(大学教授)、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣消防署長、近隣自治会役員、所属市町村教育委員会担当者、後援会理事長、同窓会役員 計9名

2 平成28年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成28年6月11日（土）内部委員6名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 平成28年10月15日（土）内部委員6名、協議委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 平成29年2月18日（土）内部委員7名、協議委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成28年6月11日（土）内部委員3名、協議委員3名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 平成28年10月15日（土）内部委員3名、協議委員3名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 平成29年2月18日（土）内部委員3名、協議委員3名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理
評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：954人 回収：902人 回収率：94.5%
 - ・12月 保護者全員 対象：954人 回収：575人 回収率：60.3%
 - ・12月 地域・住民 対象：60人 回収：41人 回収率：68.3%
 - ・12月 教職員 対象：56人 回収：55人 回収率：98.2%
- (3) 主な評価項目
 - ・学習指導や進路指導に関する満足度
 - ・進路行事等のキャリア教育に関する有用度
 - ・ホームページや学校説明会等の募集広報活動に関する充実度など
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・生徒、保護者ともに、本校の授業や進路指導等に対する学校満足度は非常に高い。
 - ・学校の良さや特徴について、効果的な広報ができていないと考える保護者も少なくない。
 - ・近隣からの生徒の交通マナー等に関する評価は確実に向上している。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・学習活動・部活動・学校行事をバランスよく高いレベルで取り組ませる指導は、前年と同様に生徒・

保護者から高い評価を得ている。

- ・学校評価アンケート全般において、1年生から2年生、2年生から3年生へと生徒・保護者の満足度が増加しており、入学後も生徒の多くが八王子東生として充実した学校生活を送れているといえる。項目により多少ばらつきはあるものの、生徒・保護者共にこの満足度が下がらないということは、プラスに評価できる点である。
- ・学習指導・進学指導だけに特化することなく、将来の社会を担う有為な人材を育てるという観点から、規範意識・社会性・リーダーシップの向上といった課題に、保護者・地域の理解を得ながら、今後も組織的に取り組む必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・入選における応募倍率の低下という事態に対して、理数イノベーション校としての取組や進路面での手厚い指導等について、HPを始め各種説明会等でもっと積極的に情報発信することで、広報面での改善を図ることが必要であることが分かった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民の方に、学校の情報が十分に伝わっているとは言い難い面もあり、防災等における協力体制の構築など、地域との連携を図るための取組を今後進めていくことが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・東京外国語大学との高大連携事業を継続実施することでキャリア教育の充実を図るとともに、理数イノベーション校として、第一線の研究者による講演や先端研究施設見学等を実現することができた。

(2) 学習指導

- ・ICT活用や能動的学習により日頃の授業を活性化するとともに、考査後の追試や学年による朝学習などのきめ細かな指導を徹底し、夏、秋、冬、直前の補習、補講も組織的に実施することができた。

(3) 特別活動

- ・日頃のHR活動を充実させるとともに、地域に開かれた学校を目指して、文化祭や体育祭の一般公開を広く周知し、学校行事の質的向上を図る取組を着実に推進することができた。

(4) 生活指導

- ・交通ルールをはじめとする公共のマナーについての指導を強化することで、生徒の安全意識の向上を図ることができた。この取組が一層浸透するように指導を継続していくことが重要である。

(5) 進路指導

- ・難関国公立大学等への受験対応のために2学年から特別講習を実施し、高い志の実現に向けた動機付けを促すとともに、精選した進路情報を提供することで生徒の進路意識を高めることができた。

(6) 健康・安全

- ・保健の授業やセーフティ教室、救急救命講習等により、健康と安全に関わる教育の充実を図り、生徒の生命尊重、他者に配慮した生活の充実について啓発を図ることができた。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	2	1				1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】参加なし

【成果】なし

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上を図るため、近隣の小中学校との連携を進めるなど、地域との関係性を重視した取組を一層推進していく。